

藤原総合文化会館検討専門部会会議録

件名	第7回藤原総合文化会館検討専門部会		
日時	令和5年3月31日(金) 15:30~16:10	作成日	令和5年3月31日
場所	日光市役所本庁舎中会議室 203	記録者	資産経営課 高野
出席者			
<日光市> 鈴木財務部長 植木資産経営課長 高野資産経営課長補佐兼公共施設マネジメント係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員 3名 松本財政課長 細井藤原観光課長 手塚生涯学習課長 杉山生涯学習課文化振興係長 斎藤藤原公民館長補佐兼公民館係長		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			
■配布資料 第7回藤原総合文化会館検討専門部会 次第、会議資料、別紙アンケート結果概要、部会委員名簿			
■議事録 1. 開会 事務局 2. 部会長あいさつ <p>皆さんこんにちは。本日は第7回の藤原総合文化会館検討専門部会にご出席いただき誠にありがとうございます。コロナ禍からですね影響もありまして実に2年6か月ぶりの開催となりました。本日はこれまでの振り返り、それから、確認事項を中心に、また、ほかの文化会館の進捗状況について報告させていただき予定でございます。よろしく申し上げます。</p>			
3. 説明事項 部会長 <p>それでは、部会長として議長役を務めさせていただきます。まず現在出席をいただいております部会員の数は、「12」名で、定足数(過半数)に達しており会議は成立いたします。</p> 部会長 <p>それでは、これより会議次第に基づき説明事項に入りたいと思います。まず(1)文化会館3館の集約の方向性について事務局より説明をお願いします。</p>			
事務局 <p>資料1をご覧ください。</p> <p>ローマ数字1文化会館3館の集約の方向性について説明させていただきます。</p> <p>市ではこれまで日光市公共施設マネジメント計画に基づき、モデル事業として文化会館3館の集約について検討を重ねてまいりました。文化会館の集約にあたっては、市民委員会や市議会の特別委員会の意見を踏まえ、新たに文化会館を整備するという方針となりました。整備にあたっては新たな施設の利用促進を図ることに重点を置き、複合化する機能や候補地などについて協議を行い、現時点で、四角の枠に示した通り合意形成が図られたところです。</p> <p>まず、複合化する機能の候補として、子育て支援機能、文化振興機能、建設地の候補としては現在の</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px;"></div> (非公開情報)、 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px;"></div> (非公開情報) の2候 </div>			

議事内容

補、ホールの規模としては、800席程度とすることとされています。複合化する機能の具体的な内容については、市民委員会や議会特別委員会での意見を踏まえながら、令和5年度に策定する基本構想の中で整理していくこととしています。候補地については、整備にあたっての財源や敷地条件を整理するとともに、利用促進の観点から総合的に判断し選定することとしています。以上を踏まえまして、新文化会館の方向性が整理されてきたことから、藤原総合文化会館に関する検討を再開したいと考えております。以上説明とさせていただきます。なお、新たな文化会館の方向性については、公表前の内容ですので、取扱いについてはご注意いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

部会長

ただいま事務局から説明がありました。皆さんの方からご質問、ご意見はございますか。すみません。マイクを通して、ご発言いただきますようお願いいたします。

部会員①

説明がありまして、子育て支援機能と文化振興機能とホールというのは、3つ同じ場所に作る予定でいるのでしょうか。

事務局

新しい文化会館を1か所に建てまして、その中に子育て支援機能なのか、文化振興機能になるのかはこれからですが、複合機能を備えた施設と、ホールを新しく整備する場所に建てると。ホールの規模は800席程度を予定しているということになります。

部会員①

抽象的でよくわからないのですが、ホールはできるのですね。間違いなく。はい。ありがとうございます。

部会員②

（非公開情報）と（非公開情報）、（非公開情報）は今何かあるのですか。現在何かあるところですか。

事務局

現在は、山林のような状況になっています。建物やそういったものは、建っていません。

部会員②

（非公開情報）か、（非公開情報）か、2つのところに1つを建てるということですね。

事務局

はい、そういうことになります。

部会員③

建設地の候補地ですけど、（非公開情報）であれば今のような使い方になると思うのですが、もし（非公開情報）になった場合は、交通の便について、公共交通を考えると少し不便になるのかなと思う。例えば、その時に東武鉄道が新たに（非公開情報）に新駅をなんてことがあるのですかね。ちょっと聞かせてもらえればと思っております。

事務局

そういった具体的な検討はまだこれから。まだ候補地も絞ったという状況ですので、これからになります。市民委員会や議会の方と協議を進めていく中で、そういったお話をいただければ、検討をしていくことになるのではと思います。

議事内容**部会員③**

現時点では候補地は決まらないから、その話は出ていないということになるのですかね。

事務局

はい、まだそういった話はありません。

部会長

文化会館の方向性についてはこれでよろしいでしょうか。はい。それでは、続きまして、(2) 藤原総合文化会館検討専門部会での確認事項について、(3) 藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会について、(4) アンケート結果等を踏まえた勉強会における主な意見等について、関連がありますのでまとめて事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、説明させていただきます。

資料1のローマ数字2 藤原総合文化会館検討専門部会での確認事項をご覧ください。

前回の会議からかなりの時間が経過してしまっていることから、おさらいもかねまして、説明させていただきます。

藤原総合文化会館検討専門部会については、計6回の会議を開催し、以下の内容について合意がなされています。

まず、耐震性の観点から、藤原総合文化会館は令和2年4月以降休止すること、次に、観光情報機能は駅前に残すことを前提に議論を進めること、3点目、手法は民業圧迫しないことを条件に公民連携を前提に進めること。具体的には、公共施設については市民活動の発表の場の確保、フリースペースを前提に今後検討を進めること。美術館等の箱モノは除外すること。商業施設については、飲食施設を中心に物販も含めて検討していくこと。物販のみの施設、宿泊施設は除外すること。4点目、サウンディングに必要な事項を検討するため、「藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会」を設置すること、が確認されています。

続きまして、裏面をご覧ください。ローマ数字の3 藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会について説明させていただきます。

勉強会については、市内観光関係者や鉄道事業者、市職員をメンバーとして設置し、計3回の会議を開催し、藤原総合文化会館跡地利活用に関するサウンディングに必要な事項を検討いたしました。検討を進める中で、観光客に対する鬼怒川温泉駅前のあり方に関するアンケートを実施することとなり、令和3年11月から令和4年1月にかけてホテル・旅館、観光施設等に協力いただきアンケートを実施しました。アンケートの主な結果は四角の枠のとおりとなっています。

対象者は、鬼怒川温泉に訪れた観光客、アンケートの回収数は1,015件、主な質問項目は鬼怒川温泉駅前に足りないと感じた施設は何かとなります。回答結果としては、飲食施設が38%と最も多く、続いて物販施設、公共施設、レジャー施設の順となりました。

続いて、ローマ数字の4 アンケート結果等を踏まえた勉強会における主な意見等について、を説明させていただきます。

勉強会における意見としましては、飲食という意見が多い。飲食を中心に複数の店舗があるような施設、フリースペースがあって、キッチンカーやイベントでの利用が可能な施設、収益施設のみでなく核となる公共施設、図書館など通年で営業するものを入れないと民間参入は厳しいのではないかと。文化会館跡地に限定せず鬼怒川温泉駅前全体を一体的に考えるべきではないかと。東武のバスの駐車場をサウンディングに組み込むことは難しい。市がそこも含めて考えたいということであれば相談にのることはできる。専門部会の意見のとりまとめから2年以上経過している。周りの状況も変化している。2年以上前の意見でこのまま進めてしまっているものなのか疑問が残る、といった意見が出されました。

以上を踏まえまして、この専門部会におきまして、改めて課題を整理、再確認し、部会員の皆様の共通認識を図ったうえで検討を進めてまいりたいと考えております。

以上2、3、4項目目の説明とさせていただきます。

部会長

ただいまの説明の中で何か皆さんから、ご質問・ご意見はございますか。

議事内容**部会員②**

鬼怒川温泉駅前あり方に関するアンケートというのは、観光客さんに対する聞きたいこと、観光客さんに対するアンケートの結果ですか。

事務局

ホテル、旅館や観光施設の方にアンケートを置いていただきまして、実際に来たお客さんに書いていただいております。

部会員②

ということは、市民とか住民ではないということですよ。

事務局

基本的には、鬼怒川温泉に来られた方になります。

部会員②

これが全てではないということですね。

事務局

観光客の意見はこういったもの、ということになります。

部会員②

分かりました。

部会員④

今の意見に関連しまして、アンケートはホテル、旅館、観光施設の観光客に対してのアンケート結果でありますので、地元の方々のアンケートは取っていないと思うのです。そういうことから文化施設、文化協会の文化の振興に対する施設というのは、そういうものが含まれていないのですが、これはあくまでも、先ほど質問されたとおり、全てではないと考えてよろしいのです。この中に、具体的な文化施設が欲しいとか、そういうものがアンケートに出てきていないものですから。その点1つだけ確認させてください。

事務局

これはあくまでも、勉強会でアンケートを取った方がいいという意見に基づいて行われたものです。これが確定的なものではないということをご理解いただいて結構です。今後専門部会において、地域の皆さんからのアンケートを取った方がよいというご意見があれば、それはそれでやりますし、そういう手法取らなくても、住民が使うという視点は重要なものと捉えておりますので、その議論は進めてまいりたいと考えております。

部会員④

今の時点では、どのようなものができるのかは全く確定していませんので、今後、検討していく中で考えていきたいと思っております。

部会長

こちらの件につきましては、これでよろしいでしょうか。それでは、（5）専門部会において検討を進める上での課題等の整理について、事務局より説明をお願いします。

事務局

最後になります。ローマ数字の5 専門部会において検討を進める上での課題等の整理について、を説明させていただきます。

藤原総合文化会館検討専門部会における検討を再開するにあたり、前提条件の共通認識を図る必要があるため、次の課題について整理した上で、今後議論を進めてまいりたいと考えております。

まず課題の1つ目検討を行うエリアについてですが、この専門部会では、藤原総合文化会館跡地を中

議事内容

心に検討を進めてきたが、駅前全体を含めて検討すべきという意見があったことから、検討を行うエリアについて再確認を行う必要があります。

それに対する市の考え方としましては、駅前全体との調和を図りつつ、藤原総合文化会館跡地のエリア（図書館、旅館組合を含む）のあり方について検討を進めていきたいと考えております。

次に2つ目、専門部会における確認事項についてですが、専門部会において一定の方向性が確認されているところですが、確認時点から時間が経過してしまっているという課題があります。

それに対する市の考え方につきましては、改めて専門部会での再確認が必要と捉えてはいますが、観光客へのアンケート結果とも概ね一致していることから、方向性については、この専門部会においてすでに確認された内容を基本として、今後も議論を進めてまいりたい、と考えております。

続いて3項目目、サウンディング型市場調査の実施方法についてですが、専門部会や勉強会において、跡地に関する一定の方向性が出されていることから、サウンディングの実施方法について確認する必要があります。

サウンディングに関する市の考え方につきましては、専門部会や勉強会における方向性を前提条件として示したうえで、民間企業等に対する参入可能性に絞ったサウンディングを実施したいと考えております。

以上の課題について整理し、市と専門部会とで共通認識を図ったうえで、令和5年度から、改めて検討を再開し、専門部会及び議会の意見を伺いながら、令和6年度中の当該地の基本計画の策定を目指したい、と考えております。

裏面をご覧ください。

次に藤原総合文化会館の検討を進めるにあたり、並行してその他個別に検討を進める課題がございますので、その点に関しても確認をさせていただければと思います。なお、検討した内容につきましては、この専門部会に随時報告をしながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

まず一点目は、観光情報センター、トイレの取扱いについてですが、観光情報センター及び公衆トイレについては、国庫補助などの関係から現時点で取り壊すことが難しい状況にありますが、減築等により残すのか、取り壊して新たな整備を行うのか、等の検討を行う必要があります。

次に2点目は、藤原図書館の取扱いについてですが、藤原図書館については、かなりの老朽化が進んでいる状況にあります。市としましては、現在の規模での建替えや大規模改修は考えていないことから、利用者の意向も踏まえながら、あり方について検討を行っていく必要があります。

最後に3点目関係者との調整についてですが、駅前全体との調和を図るうえで、東武鉄道や旅館組合など事業実施にあたり影響のある周辺事業者等との調整を図る必要があるととらえております。

以上の点を踏まえながら、次年度より改めて当該地の議論を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。以上説明とさせていただきます。

事務局

資料に表れていなく、誤解が生じてはならないので、再度補足説明させていただきますが、課題をいくつか挙げさせていただいていますが、例えば課題2の専門部会における確認事項というのは、以前にこの専門部会で合意形成が図られた案件を基本として、先ほど市民の意見がどうだ、文化振興の施設がどうだというのは、今後検討していくということでご理解いただきたい。あくまで、前回までの合意形成されたものは基本に据えて、新たに協議を再開していくということでご理解いただきたい。市民へのアンケートを行うというのは、手法の問題で、それもどういった方法で実施していくのか、どういう視点で市民へのアンケートを取るのか、というのをご意見をいただきながら、決めてまいりたいと考えておりますので、この資料にはそこまで深く表現されておりませんが、今後はそのように進めていきたいと市では考えているということをご理解いただきたいと思っております。

部会長

ただ今の説明に対して皆さんからご質問ご意見はございますか。

部会員①

検討を行うエリアということですが、このまま行くと総合文化会館がなくなってしまうので、駅前広場のステージを活用できるように屋根をつけるような案を出した覚えがあります。それもぜひ酌んでご検討いただければと思います。

議事内容**事務局**

専門部会の確認事項で、発言されている内容も記録としてとってありますので、市としてはその点理解しております。それも候補だと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

部会長

これまでのところはよろしいでしょうか。アドバイザーの先生からございますか。

山本アドバイザー

観光客のアンケートから出された全部記載事項を読ませていただきました。多種多様なご意見がいっぱい入っております。基本的に言われているのは、温泉がすごくいいというのはあちこちに出てくる。駅前寂しさも出てくる。今回、区域は限られていますけれども、そのことをうまく活用しながら、観光都市として、鬼怒川温泉をどうやって活性化させていくかが非常に大事だと思います。もし、その中で、何か起爆剤となるかが必要で、皆さんも熱海を見ていらっしゃると思いますが、熱海は一時寂れたのですが、今活性化していますし、道後温泉も飛鳥乃湯泉ができて、いろんな商店が出てきて変わってきています。うまくやればどんなことができるか、この検討専門部会で検討できれば良いと思います。

西尾アドバイザー

検討を行うエリアという課題がありましたけれども、跡地だけではなくて駅前全体を含めて検討できればと思いますし、さらに言えば、駅前を起点としてその取組がまち全体の活性化につながっていく、まちの活性化のビジョンとつなげて考えていくのが大事じゃないかなと思います。

関連しまして、課題2のところ委員の皆さんから市民の、住民の視点が弱いのではないかという指摘がありましたけれども、この場所は、市民が利用するということでもありますし、観光客もここを利用して、より観光客を引寄せるところでもありますし、市民と観光客が共に使うということを念頭に置いて、考える必要があるかなと思います。山本先生から熱海の話がありましたけれども、熱海の取り組みも、いろんな復活の要素があると思いますが、そのうちのひとつとしては、市民と観光客の交流という観点ですごく力を入れて取り組みをやっているというところがあります。オンパクという別府でもやっている取り組みでありますけれども、まちの中で地域の住民の方も参加しながらいろんなイベントが行われている。そこに行けば、何か楽しいことが出会える。そういったものを提供しているところが、大きな魅力なっているところがありますので、そういった市民の方と観光客が交流して、それが観光地の魅力となっていく、ということを考えてもよいのではと思いました。

また、課題3のサウンディングのところですけども、前回から2年ほど経って大きく変わってきたところと思うのは、東武鉄道がこの検討の中に入ってきたところです。東武鉄道と鉄道を使ってどうやって観光客を集めるかっていうところが非常に大きなテーマになってくると思いますので、東武鉄道の巻き込み方といいますか、関わり方ということをよく検討したうえで、うまくできるようなサウンディングのやり方を考えていくのが良いのではないかなと思いました。

部会長

議事について、こちらで終わりになります。続きまして4番のその他になります。その他で皆さんの方から何かございますか。

事務局よりございますか。

事務局

事務局からも特にありません。

部会員③

文化会館に関して、方向性が出るのは、令和6年度ということによろしいのですかね。その間、今の藤原文化会館はずっと残しておくということで理解してよろしいということなのですかね。

事務局

文化会館の方向性ということについては、最初にご説明した市全体の文化会館の方向性という理解でよろしいでしょうか。

議事内容

候補地でまず議論していくのですが、候補地が藤原文化会館の跡地を挙げていないので、藤原文化会館については、並行して協議を進めていきたいと思っています。それで、今のところ、来年度中に新しい文化会館の基本構想を作っていく予定ですが、それを待っているのではなくて、並行してこの専門部会を再開していきたいと。その中で、藤原の駅前をどうしていくのか、というのをこの専門部会の中で決めていきたいと考えております。今年協議を進めていきたいと考えておりますので、年3回ということで、この専門部会を開きたいと考えております。その都度テーマを決めながら整理をしていくのですが、全体の文化会館の方向性を見極めながら、テーマを決めていきたいと考えていますので、今のところどういうスケジュールかというのは組み立てづらい面があるけれども3か月後ぐらいに整理し、専門部会を開催させていただければと考えているところです。

部会長

では、決定するまでは、今のまま置いてく。解体するとかは、決まってからになるわけですか。

事務局

解体するには、ある程度駅前を再開発するにあたって国庫補助とかを入れるなどの財源を考えています。駅前の再開発ということに対して、計画を作って国庫補助を入れて、解体の費用も国庫を入れていくということを考えているので、解体が来年度早々にできるかという、無理なのかな。令和5年度中に絵をかきながら方向性を定めて、令和6年度に基本計画とか立ち上げて国庫を取る準備をするということを考えていますので、解体については、しばらくお時間をいただきたいというのが市の考えです。

部会長

他に何かございますか。特に無いようですので、本日用意された議題は以上となります。

事務局

これもちまして、第7回藤原総合文化会館検討専門部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

16:10閉会